

友彦

早速此頃には見舞状

預載いたし難右所化

申上は私も十日以前

より上京中大雨の爲

帰村出来ず辛己

昨秋遅く帰宅仕止

幸小酒匂川の浸漬

雨遠くしなぬ浸水の

難たの町小申りか昨日

午前十時迄所安事内の

林香雄

(隼、旧臘以来小生乃
小寄退致候)

直ぐ前の海を遊泳中

直ぐ前の海を遊泳中
後つて溺死を遂げ申は
昨日来個又は船中
屍体捜索化居少其
未だ浮り出せず
早急で戦のやうに騒ぎ
あつたさうさ小島に
のちかお一再三打電
も今以て何人の道す
お水又運ちお小島中
置つた人のたあ斯う何
も面倒お思ひするさ
も因余のうちお心
取急ぎ礼を申し免
らうお心

句

吉原集

青島

風葉先生

行中

お啓又、残暑ぶり返し

の気味閉にふの事や存心

新報社に改題者クテ混

より帰宅昨お面会作

災令園様出版の件は

前、社内報中、高橋

愈々確定近日出版

愈々確定近日出版

着手する由確基有之

中々先方も大層お

申置きの體裁その他

の所注文は其際出申

込ある方便利ならんこと存

中々望論史金園杯

直接に成版者お面会

たさるおお流可然と

存中唯又例の癖

を校置さるる在困故

少しは催促の氣遣方を

直見せたる方可然と

江見せたる方可然也

拙作也後長之在面倒

た然之恐端も存中

也之昨日定結也

以の事少田生差出中

よわしく教上中

何れ近口交研酒化交

存居候

真山彬

鷹野詞見

傳史

存居候

真山影

鷹野詞兒
伴史人

市外、世田、谷、太子堂
三四七

雁野弥三、次、標



牛区、区、矢、事、所、立

直、岩、山、標